

ふだんの見守り活動について

(地域のみなさんの実体験などから)

地域包括支援センターつつじ苑 25年3月6日 稲羽地区 地域ケア連絡会 より

① 見守りが必要な人に対して、地域でふだん行っている見守りの方法

- ◇朝にいつも会っている人に会えなかった時は、夜に電気がついているか確認している。
- ◇いつも会っている人に会えなかった時は、家族に電話してみる。
- ◇2ヶ月に1回お家を訪問している。
- ◇積極的に声かけをするように意識している。
- ◇敬老の日などに五目ごはんを持って訪問している。
- ◇ボランティアハウスを開催して、高齢の方に参加していただいている。
- ◇町で3世代のふれあいイベントを開催して、高齢の方に参加していただいている。
- ◇自治会役員の奥さんが近隣ケアのメンバーなので、月1回自治会役員会で話ができる。
- ◇昼間は高齢者が見守りをする。

② 地域で見守りをする上で、困っていること

- ◇昔と比べると近所付き合いが少なくなった。
- ◇回覧板を回す時も、直接顔を合わせずポストに入れるだけになった。
- ◇何か物を持って訪問しても、同居している家族に「元気です」と言われ、本人にお会いできないことがある。
- ◇本人に会いたいのに、なかなか会えないことがある。
- ◇情報がないのに、どうやって関わって良いかわからない。
- ◇緊急時の連絡先を把握できていない人がいる。何かあったときどうすれば良いか。
- ◇本当は必要だと思われるのに、緊急通報システムを利用してくれない人がいる。
- ◇声かけしても良いか、話しかけても良いか、迷うことがある。
- ◇地元の交流会などに参加していただけない人には話しかけにくい。
- ◇心配な人がいても、本人が関わりを拒否しているので声かけできない。
- ◇ちょっと心配な人がいても、近所の目が気になって声かけできないこともある。

『どうすればもっと見守りがしやすくなるでしょうか。良いアイデアはありませんか?』